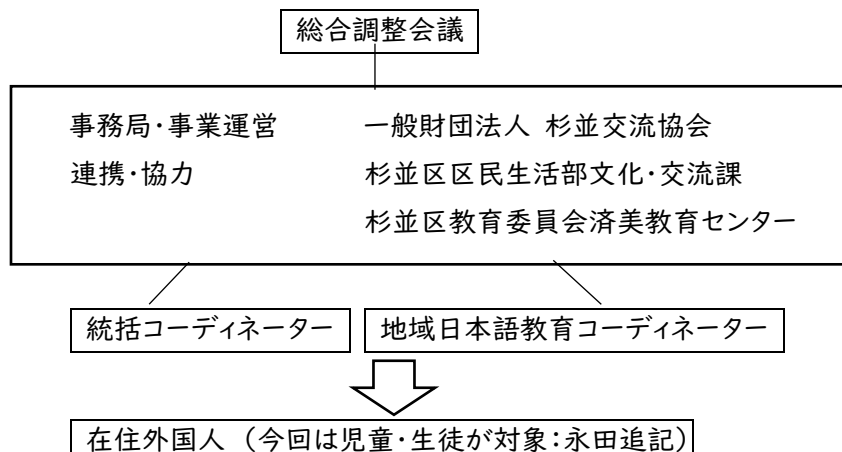


『杉並区子ども日本語教室』の実戦活動報告書

永田晶子(学校法人国際青年交流学園イーストウエスト日本語学校)

1. 概要

「日本語教育の推進に関する法律」等を踏まえ、一般財団法人杉並区国際交流協会によって新たに在住外国人の児童・生徒等を対象とした日本語教育推進事業が計画され、2022年度より活動が始まった。実施にあたっては、区及び教育委員会と連携して取り組み、区在住児童・生徒等の地域生活や学校教育活動の充実につなげていくことを目的としている。(杉並区事業の概要より引用)



2. 2022年度4月現在の課題の背景

これまで杉並区では外国にルーツのある子どもたちの学習支援は各校の初期指導(「補充指導」と「訪問指導」)がメインであった。しかし、杉並区在住外国人の増加に伴い、外国人の子どもも増加してきた。また、コロナ禍にあって、区内にあるインターナショナルスクールからの区立小中学校への転入も増え、校内での初期指導にあたる教師も予算もその数に対して足りない状況となっている。また、初期指導だけでは外国にルーツのある子ども達の日本語指導は十分ではなく、継続して日本語の学習支援や教科につながる学習支援が必要とされていた。そのため、教室の開始後も交流協会、教育委員会、区の連携を取って対応していくことが求められている。

3. 子ども日本語教室の目指すところ

- ①子どもの居場所となることはもちろん、学校生活に慣れ、教室で楽しく学習を進めることができるようになる
- ②日本語の支援を始めると同時に、教科につなげる日本語指導も子ども一人一人に合わせた形で進めていく
- ③将来へとつながる日本語支援
- ④保護者のサポート体制の構築

4. 現在までの実施内容

- 2022年4月 第1回総合調整会議(その後6月、8月、10月、12月、2月と開催)
- 4~9月 子ども日本語学習支援ボランティア養成講座の調整と教室開始の準備
- 10月 養成講座の実施(第1~第4回/全10回)、教室開始の準備
- 11月 養成講座の実施(第5回~第8回)、教室開始の準備
- 12月 養成講座の実施(第9回、第10回)、子ども日本語教室の詳細が決定

2023年1月 学習支援ボランティア養成講座修了者向け説明会、保護者説明会

子ども日本語教室開始：高円寺駅前教室（月・水の週2回）

2月 子ども日本語教室開催

4月から中学生を担当するボランティア向けの補習を3月に実施（全2回）することが決定

5. 子ども日本語学習支援ボランティア養成講座について

3.に挙げたような日本語教室の実現のため、また関係者やボランティアが同じ方向を向いて支援をするために必要な知識や実践力を身につけ、お互いに協力して教室活動ができるようになる養成講座を目指した。対象が小学生のため、その成長過程の特長などを理解し、対応できるよう知識だけでなく実践を多く取り入れた。

そのコンセプトは ①子ども日本語教室に参加する子ども達に対する向き合い方や姿勢を学ぶ

②対話を重視した「ともに考える」ことに重点を置く

③子ども日本語教室の現場での臨機応変な対応力を養う

④小学生の日本語学習支援を重視した内容とする

6. 杉並区子ども日本語教室の1日

高円寺教室（月・水）1月25日開始 4:15~5:50

（済美教育センター教室（火・木）4月開始に変更）

時間	内容	
4:15~4:45	ふれあいタイム／宿題タイム	周りの人とお話をしたり遊んだりする 宿題のある子どもは宿題を、始めたい子どもは勉強を始める
4:45~5:00	勉強タイム	} 子どもの様子を見て進めて行く 日本語学習、教科につながる学習、 音読、作文、感想文など（時間は目安）
	5分休み	
5:05~5:20	勉強タイム	
5:20~5:35	お楽しみタイム	ゲームやことばを増やす遊び、絵本、など
5:35~	片付け、ファイリング、振り返り	ボランティアと子どもがシートに記録する
5:40~5:50	帰りの会 あいさつ	各グループで子どもの司会で振り返る 全体であいさつ

※学校行事・季節の行事について事前学習と準備、実施後の感想、文化紹介などを月1回実施予定

・時間は目安であり、ボランティアが子どもの様子を見ながら、緩やかに寄り添って進めて行く。

・原則、子どもとボランティアは1対1で対応する。

・教室には専門の日本語講師がいて、ボランティアのサポートをする。

・地域日本語教育コーディネーターは3月まで毎回参加。（4月からは2教室を巡回する予定）

7. 杉並区「子ども日本語教室」の実施状況

1月開始から8回の参加者数は以下ようになった。

	参加児童・生徒数	参加ボランティア数
月曜日	12~15人	12~14人
水曜日	13~15人	14~17人

参加登録者子ども18人、ボランティア27人のうち、週1回参加の方や済美教育センター教室がスタートする4月から参加する方がいるため、3月までは同様に推移していくと思われる。

8. 課題

①情報共有に関する課題

教室を運営していく中で、交流協会、教育委員会、統括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、専門日本語講師それぞれが、その場でボランティアに対応することも多いが、その対応や新たな意見などの情報を共有するツールや場があるといいと考えた。

⇒メーリングリストを作成し、情報の共有化を図ることを計画中。

令和5年度から月1回のボランティアとスタッフ全員の参加による連絡会議を実施する予定。

②参加児童の能力把握に関する課題

今回、教室作りはスムーズに行えたが、子ども18人と人数が多かったため、子どものつまずきや日本語能力の把握のための動きに手間取ってしまった。次回に向けて、教室作りと能力の把握をバランスよくスムーズに行えるよう改善したい。

③子どもに対する評価について

評価する対象の子どもたちの把握が進んでいる中で、その評価方法の検討を進める必要がある。

④教室に通う子どもの保護者を対象とした支援について

現在はスタッフそれぞれが保護者に声をかけることで、子どもの様子や学習内容の希望などの聞き取りをしている状況である。今後、保護者の生活支援につながる活動を検討していきたい。

9. 最後に、地域日本語教育コーディネーターとして大切にしたい視点

最後に、これまでの活動を振り返って考えて見ると、「全体を見渡す力」と「決断力」、そして「何とかする力」を大切にしたいと考えた。新たなことを立ち上げていく場面では、現状を把握し、その状況で最善の決断をしなければならず、その結果が計画通りに進むとは限らないからである。それでもこれまで日本語の支援体制がなかったところに、新しい「居場所」であり「学びの場所」が作られることは重要な意味があると改めて感じている。今後もこの視点を大切にして、地域日本語教育の発展のために、努力していきたいと思う。